【神風連（の乱）】

桜山神社は、幕末の思想家林桜園や明治期剣で活躍した肥後勤王党の志士、さらに神風連の乱に関わった肥後勤王党の志士、さらに神風連の乱に関わった百二十三烈士を合わせて祀る黒髪五丁目の景道沿いにある神社です。

【坪井中央公園】

坪井中央公園は、18世紀の時点の中央に位置する大きな公園です。一角には細川藩の家老が住む武家屋敷が残っています。春には桜の花吹雪も見られ花見客で賑やかです。グラウンドゴルフが盛んで、休日はキャッチボールなど親子で遊ぶ姿がよく見かけられます。

【菊池電車】

菊池電車の名で親しまれている熊本電鉄は、明治44年（1911）軽便鉄道として「熊本」（当時は「池田」）と「藤崎宮前」間で開通しました。現在、通勤・通学の足として中央を走る県内唯一の私鉄電車として、観光列車の運転も行っています。住居の近くを通る電車として、いわゆる「電車オタク」と呼ばれる方々も多勢集まります。

【豊国廟跡】

豊臣秀吉夫妻を祀った廟（祖先の霊を祀る建物）です。立田山の南側中腹にあり、加藤清正が慶長4年（1599）に豊国大明神宮として建営しました。正門近くには樹齢100年を越える大きなイチョウの木があり、太く真っ直ぐに伸びるこの木には児童の成長を見守り、黒髪小学校のシンボルツリーとなっています。

【黒髪小学校】

黒髪小学校は、明治7年（1874）、金井小学舎として創立され、平成26年（2014）に140年を迎えました。正門近くには樹齢100年を越える大きなイチョウの木があり、太く真っ直ぐに伸びるこの木には児童の成長を見守り、黒髪小学校のシンボルツリーとなっています。

【はあもにい】

黒髪校区では、毎年9月に「敬老の集い」を開催し、校区の75歳以上の高齢者を招き、校区内の幼稚園から高齢までの児童生徒や、地域ハミュニティセンター高田原の公民館の用ダンブが日頃の技を発揮します。平成27年（1999）から始まった敬老の集いは、この熊本市男女共同参画センターあもにいで開催されます。

【林桜総合研究所】

林桜総合研究所は、熊本市金峰山自然公園の立田山の南側に位置し、我が国唯一の森林・林業の分野における国立研究開発法人として、林業の発展に貢献する研究を行っています。また、行政や社会ニーズに対応した研究と事業を行っています。

【黒髪西公園】

黒髪西公園のほとりは、その昔、坪井田畑で、稲を栽培していました。そのため、湧水を利用して溜池が建設されました。その後、土地が整備され、稲作が行われなくなったため、公園として整備されました。今では、町民の憩の場になっており、毎年夏祭りも行われています。

【熊本大学】

文、教育、法、理、医、薬、工の7学部から構成される国立大学です。九州地方の研究・教育・産業の中心的な総合大学です。また、熊本の「知（地）の拠点」として地域の産業振興や文化向上に貢献しています。

【黒髪幼愛園】

明治27年（1894）5月、熊本県女子師範学校同窓会により、幼児教育の場として現在の場所に設立されました。平成8年（2012）に創立80周年を迎えた、長い歴史を誇る保育園です。

【子飼】

古代、太宰府につながる官道に「蓑番駅」が置かれました。当時から対馬の大江様では、たくさんの蓑が何われ、蓑屋敷もあったといわれています。江戸時代、「子飼」と改められました。下校時の声かけを通じ、学校との連携や子ども会との交流などを通じ、地域の結びつきが深まりました。

【子ども見守り隊】

みまもり〝たい〟は、熊本弁の「タイ」、安全を願う「やりたい」の「たいと」の気持ちを込めて名づけられました。

【一里木（跡）】

江戸時代、参勤交代に使われた街道には、一里（4km）ごとに植が植えられました。黒髪5丁目の一里木バス停の近くには、「黒髪一里木」と刻まれた石碑が建っています。黒髪を通る二の街道を豊後街道といいました。

【五高記念館】

赤レンガの五高記念館は明治22年（1889）に完成しました。（現在、国の重要文化財）。卒業生は寺田寅彦、夏目漱石、池田亀人、木下順二、梅崎春生、佐藤栄作ら多士済々。ちょっとタイムスリップして明治時代の学生生活をのぞいてみては？

【リデル・ライト（両女史記念館）】

当時、不治といわれていたハンセン病患者の治療のため宣教師ハンナ・リデルは黒髪ハンセン病療養門の病院を明治28年（1895）に開設、のちに彼女のエダ・ハンナ・ライト女史は、激しい癒れました。リデル・ライト両女史は、激しい差別と迫害を受けていたハンセン病患者を生涯助けました。

【薬草園跡】

市街地から国道3号を北へ進み、浄行寺交差点から東へ進む3キロ程の地点です。

【自主防災クラブ】

地域（住民）が連携、協力し、自助・共助の考えに基づき、資源・物・情報の収集・守り・活動や周辺環境の整備など地域の被害を最小限に抑える自主防災クラブがあります。

【リデル・ライト（両女史記念館）】

市街地から国道3号を北へ進み、浄行寺交差点から東へ進む3キロ程の右折して三軒町通りをはさむ形で配置する薬園町。この町名は、細川家第8代藩主細川重賢公が創立した御薬園（薬草園）が由来とされています。

【泰勝寺（跡）】

細川家の菩提寺（泰勝寺）跡は、現在、四方八方公園」となっている。ここには細川家初代の藤孝（幽斎）と二代忠興夫妻の墓「四つ御廟」をはじめ、第十二代以降の藩主の墓があり、園内には杉木立に囲まれた「苔園」や茶室「仰止軒」があります。

【白川】

白川は、熊本市の中央を流れる一級河川です。豊富な水量で流れる白川が肥沃な熊本平野をつくってきたのです。しかし、時として、住民は大水害という苦しい経験を重ねてきました。中でも昭和28年（1953）6月26日の大水害は忘れ難い未曾有の被害をもたらしました。

【肥後一子ジャングル】

遊水地（坪井川緑地公園）は総面積97000平方メートル、一周1720メートルという広大な敷地で野球やテニスコートもあり、中央に巨大な遊具を備えた「肥後っこジャングル」もあります。朝夕のジョギングや散歩に、親子連れのピクニックにも楽しめる空間です。

【外国人が多い街】

黒髪校区には熊本大学に留学している外国人がたくさん住んでおり、よく、欧米やアジア・既来の人たちに会います。平成25年（2013）から校区自治協議会主催で、地域と留学生との交流会を実施し、国際交流かなまちづくりを行っています。

【小峰墓地】

ここは、陸軍墓地として開設されました。墓があり明治初期にかけて活躍した人々の墓があり、忠実様のブロンズのレリーフは歴史原墓三助画伯の作品です。歴史をいろいろと考えさせられる墓園です。ラフカディオ・ハーンが愛した「鼻欠け地蔵」もあります。

【文教地区】

旧制五高時代の名残である赤門と赤レンガ校舎の為熊本大学、ルーテル学院大学・高校・中学校、清水聖高校、学校と、黒髪校区には2つの大学、3つの高校、3つの中学校があり、文教地区といわれています。また、校区のシンボルの大イチョウがある黒髪小学校は子ども自治だけでなく、校区のみんなの心の拠り所にもなっています。

【五高寺】

熊本大学の前身の一つである第五高等中学校は、明治27（1894）、第五高等学校と改称され、五高の名で親しまれた。貴沢で嫌うバンカラ精神が、五高生の誇りでもあり、総理大臣になる多くの有名人を輩出しました。

【宇留毛】

昭和30年代まで「宇留毛」という地名がありました。黒髪1～3丁目の地名です。昔から「この一帯には洞窟が多くありました。洞窟のことをウロとウロ（洞）が訛り、宇留毛という語源となったのケと伝わっています。

【本光寺】

坪井4丁目にある本光寺の立燈籠には安元元年（1175）の銘が刻まれ、「熊本県指定有形文化財」に指定されました。寺伝によれば「事編を呼ぶ供養塔」といわれ、今後も大切にしていきます。

【電車引込橋線跡】

熊本電気鉄道株式会社のある黒髪3丁目には昭和20年代、「熊本電車」という名称があり、現在の電車の車庫の東隣あたりから車庫までの線路は「引込線」と呼ばれていました。当時のわんぱくな子ども達は、鉄線の芯やゆ釣り針などを拾うため、電車の方で針を曲げようと、線路上に釘を置こうとしていた、親に怒られていたそうです。

【市電子飼橋線】

昭和27年（1928）12月28日、子飼橋まで市電が延長されました。多額の利用者でにぎわっていました。しかしながら、昭和30年代になると、モータリゼーションの急速展により、乗客も減少し、運賃は大変渋滞し、市電もとても遅れていました。そのため、昭和47年（1972）3月に廃止されました。

【宮本武蔵引導石】

剣聖宮本武蔵がぐくくり、今の武蔵塚に埋葬する途中で、桜をこの石の上に置いて泰勝寺の高僧が成仏するようにと引導を渡したといわれています。（伝承）。この石は引導石と呼ばれるようになりました。

【七曲り（竹部の七曲り）】

来「四宮の武家屋敷で小さな路地が右折、左折、右折、左折と迷路のようにして桜天神（菅原神社）ありまで続いていて、他国や幕府の隠し密室をこの迷路に迷いへの誘導ら防るために作られたとの言い伝えがあります。

【三軒町通り】

昔の重後街道から菊池川に通じるこの入口にあたる三軒町通りは古くから豆腐・麸・高菜・菊池屋などの商家が集い賑わっていました。現在も、車や自転車に乗った学生など多くの人が行き交う通りです。

【小幡八幡宮】

小幡八幡宮があるあたりは、明治の始めまで小幡町と呼ばれていました。ここに小幡八幡宮があり、子飼の渡しの守神として祀られていました。中国・唐時代の伝説が残っています。毎年、校区をあげての交通安全祈願祭が行われています。

【熊本城】

明治10年（1877）の西南戦争で薩軍、官軍とも死傷者が続出する中、奥清を受けた医師・嶋野宗巴は薩軍・官軍を問わず治療に当たる。国際的な人道的な医師・嶋野宗巴は、明治27年（1894）、第五高等学校と改称され、五高の名で親しまれた。貴沢で嫌うバンカラ精神が、五高生の誇りでもあり、総理大臣になる多くの有名人を輩出しました。

【五高寺】

熊本大学の前身の一つである第五高等中学校は、明治27（1894）、第五高等学校と改称され、五高の名で親しまれた。貴沢で嫌うバンカラ精神が、五高生の誇りでもあり、総理大臣になる多くの有名人を輩出しました。

【（夜塘）】

江戸幾時代、寛政8年（1796）6月から年末までの約半年をかけて、藩主細川斉茲が築いた規模です。真例の通さで完成させ、まるで一夜で築いたように感じさせたことから、「一夜塘」と名付けたようです。

【ペ重くちなし】

立田山で野生のクチナシに交じって八重咲きのクチナシが発見され、国の天然記念物になりました。しかし、泰勝寺の老木が枯死し、現在の人を落胆させました。熊本県指定有形文化財（史）の協力で復活しました。ヤエクチナシは変異種ため挿し木でしか増やせません。花は香りがよく豪華です。

（※）森林総合研究所九州支所

【市電電子飼橋線】

昭和27年（1928）12月28日、子飼橋まで市電が延長されました。多額の利用者でにぎわっていました。しかしながら、昭和30年代になると、モータリゼーションの急速展により、乗客も減少し、運賃は大変渋滞し、市電もとても遅れていました。そのため、昭和47年（1972）3月に廃止されました。